

# 3R瓦版 (2月号) 2018年

## グリーン購入とSDGs 新しい事業展開の切り口

「グリーン購入」は、皆さんにとって聞き慣れたことでしょうか？仕事をする上で、生産、流通、輸送、販売などにおいて、大気汚染、水質汚濁、温室効果ガス排出、ごみ廃棄など環境へ影響を与えないことにはないと思います。会社では、お客様からの要望にもとづき、より良いものを、より安く、より早く提供することを優先して商品、サービスを提供されていると思いますが、先ほどの環境への影響を減らすことには限界があります。そこで、消費者の立場から、製品やサービスを購入する際に、環境のことを考えて、必要性をよく考え、他社がつくった環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入する社会貢献に取り組むことで課題はクリアできます。これがグリーン購入の意義です。グリーン購入は、政府機関では法律で、製品購入や発注のルールづくり、購入商品の限定等が義務づけられています。地方自治体や民間、市民には努力に止まっています。そこで、自治体、企業、市民団体にグリーン購入の普及を図るため、商品の環境データなどの情報交換や環境ラベルの勉強会などを行う民間団体が生まれ、京都ではKGPN（旧：京都グリーン購入ネットワーク）が京都府内で活動しています。

さて、2015年9月の国連総会で「SDGs」（持続可能な開発目標）（2016年1月発効）が採択されました。17の持続可能な開発のためのゴール（長期的目標）と169のターゲット（2020年～30年までの短期目標）が示され、持続可能な社会の実現を全世界で目指していこうとしています。持続可能な開発には、経済的発展、健全な社会づくり及び環境保全の三つの調和が不可欠であり、この取組には事業活動における新たなビジネスモデルに向けたイノベーションが求められます。

グリーン購入に関しては、「ゴール12.持続可能な生産消費形態を確保する」（Goal 12. Ensure sustainable consumption and production patterns）に、次のターゲットがあげられています。

- 12.2 2030年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的利用を達成
- 12.4 2020年までに化学物質・廃棄物の大気、水、土壌への放出の大幅削減
- 12.5 2030年までに廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用による廃棄物発生量の大幅削減
- 12.6 大企業や多国籍企業などに対し、持続可能な取組の導入、持続可能性に関する情報の定期報告の奨励

このような世界の動きへの対応は、大企業の取組と考えがちですが、最近取引先（バリューチェーン）に、「持続可能な開発」につながる活動を求める会社が増えてきています。例えばオリンピック開催にあたっての建設工事や購買、調達の条件に「持続可能な開発」につながる活動が求められています。SDGsは新しい事業展開の切り口のヒントを与えてくれています。今後共KGPNは、京都の会社に取り組みそうな最新情報を提供するなど持続可能な事業活動の応援をしています。



© 2018 フジコ イトウ All Rights Reserved.

REPAIR FACTORY

(株)本杉工機

京都府久世郡久御山町田井新荒見 220 番地

tel : 0774-66-6254

### KGPN 4つの目的

- 1 環境にやさしい商品・サービスを京都府内に普及しグリーン市場を拡大する。
- 2 京都府内で環境にやさしい商品・サービスを提供している事業者の活動を促進する
- 3 グリーン購入に取り組む消費者・事業者・行政の情報交換と活動促進の場とする。
- 4 持続可能な消費と生産を拡大する。

KGPN (旧京都グリーン購入ネットワーク)  
事務局長 宇高史昭